**令和６年度東海学園大学卒業式式辞**

**学長　石川　清**

**春の訪れを感じる今日、この良き日に皆さんとともに卒業の日を迎えられることを、心から嬉しく思います。ご来賓の皆様、保護者の皆様、そして教職員の皆様、本日は卒業生の新たな門出を祝うためにお集まりいただき、誠にありがとうございます。**

**卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。　今日という日を迎えるまで、皆さんは多くの努力を積み重ね、さまざまな経験をしてきました。その歩みを支えてくださったご家族や友人、先生方への感謝の気持ちを、ぜひ胸に刻んでください。**

**皆さんの大学生活の始まりは、新型コロナウイルスの影響を受け、多くの制約がありました。思い描いていた学生生活とは異なる日々を過ごしたかもしれません。しかし、そのような環境の中で試行錯誤を重ね、適応し、新たな学びを得たことは、皆さんの将来にとって大きな財産となるはずです。**

**そして今、社会は大きな変革の時代を迎えています。生成AIの急速な発展により、私たちの働き方や価値観が大きく変わろうとしています。AIがもたらす利便性とともに、「人にしかできないこととは何か」という問いが、これまで以上に重要になっています。これからの時代に求められるのは、技術に振り回されるのではなく、それを活用しながら、自分の強みを生かし、新たな価値を生み出す力です。どれほどAIが進化しても、最も大切なのは人と人とのつながり、そして創造力です。皆さんには、変化を恐れず、自らの道を切り開いていってほしいと願っています。**

**また、どのような時代にあっても、変わらず大切にすべきものがあります。それが、本学の教育理念である「ともいき」の精神です。私たちは、周囲の人々や社会、そして自然環境に支えられながら生きています。そのことに感謝し、自らも社会の一員として活き活きと生きること。それが「ともいき」の考え方です。皆さんがこれから歩む道においても、この「ともいき」の精神を忘れずにいてほしいと思います。**

**そして、人生を充実させるために大切にしてほしいものがあります。それは「やりがい」です。自分が夢中になれること、大切にしたい価値観、何のために努力するのか、それを見つけることが、人生を豊かにします。　しかし、「やりがい」のある道には、必ず試練が伴います。思うようにいかないことや困難に直面することもあるでしょう。しかし、その試練こそが、皆さんを成長させ、より大きな達成感をもたらしてくれるはずです。**

**私自身も、これまでの人生で幾度となく試練に直面しました。思い描いていた道が閉ざされることもありました。しかし、諦めるのではなく、新たな可能性を探し続けたことで、思いがけない出会いや経験が生まれました。時にはうまくいかないことがあっても、それがきっかけとなり、自分自身の可能性を広げることにつながるのです。　皆さんも、どんな困難に直面しても、自分の「やりがい」を信じ、挑戦し続けてほしいと思います。**

**ここで、ぜひ皆さんにご紹介したい人がいます。本日、皆さんとともに卒業式を迎えた江夏明希さんです。**

**江夏さんは２０１９年４月、保育士を目指して本学教育学部へ入学しました。しかし、夢に向かって大学生活を謳歌していた２年生の時、原因不明で確立された治療法もなく、社会的認知度が低いにもかかわらず難病指定されていない「線維筋痛症」という病気を発**

**症しました。全身の痛みと闘いながら学業を続けることが困難となり、一度は退学を余儀なくされました。　希望を失いかけた江夏さんでしたが、「この病気になった自分だからこそ、できることがある」と気づきます。そして、障害者専門の芸能事務所に所属し、自らの病気について社会的理解を広めたいという強い思いを抱くようになりました。昨年４月、本学に再入学し、厳しい痛みと向き合いながらも懸命に努力を重ね、本日、見事に卒業の日を迎えました。江夏さんの姿勢は、皆さんにとっても大きな勇気と希望を与えてくれることでしょう。**

**皆さんがこれから歩む道は、それぞれ異なります。しかし、どのような道を選んでも、共に学び、支え合うことの大切さを忘れないでください。試練を乗り越えながら、やりがいを持って挑戦し続けることで、皆さんの人生はより輝きを増していくはずです。**

**最後に、東海学園大学で過ごした時間、共に学んだ仲間や先生方との絆を大切にし、これからも東海学園大学の卒業生であることに誇りを持って歩んでください。そして、自信を持って社会へ飛び立ち、それぞれの夢を実現されることを、心から願っています。改めて、皆さんのご卒業を心よりお祝い申し上げます。本日は、誠におめでとうございます。**